



玉堂さん、山陽さん、竹田さんは交友があるようですが、出身地はみんな離れていますよね。



出身かあ。いまの時代でいうと、わしは岡山、竹田が大分、山陽は広島じゃったかの。



電車もない江戸時代で、みなさんはどのように交流していたのでしょうか。



主に文通かな。当時の文人は独自のネットワークを持っていたから、遠く離れた友人は多かった。



あとは旅じゃろうな。旅が流行った江戸時代の中でとくに文人は旅をするものが多かった。わしは出身こそ岡山だが、50歳で脱藩してからは全国を放浪していた時期があったくらいじゃ。



文通友達と旅に出ることがあったら、とても楽しそうですね。



わたしは森君（森春樹・大分の国学者）と船旅をしたことがあってね。これがまさにその時の作品《筑後川図巻》だよ。



穏やかな余白と盛り上がった山のリズムがすばらしい作品ですね。



筑後川を知られざる絶景として紹介したくて、描いてもらったこの図巻をお土産として人にあげたんだ。



旅先で見つけた風景を絵に描いて新しい観光地として発信するのも、我々文人ならではの活動じゃったな。



なんだか現代のSNSみたいですね。



森春樹《筑後川図巻》(部分) 文政元年(1818)頃  
広島県立歴史博物館(重要文化財菅茶山関係資料)